

医療福祉の地域創造会議 通信 第120号



第116回ワーキンググループ会議 (R5.12.21)

(R6.1.16)

「おやじ達の青春物語 ～近江八幡おやじ連～」

●話題提供者

近江八幡おやじ連

代表 高橋 作榮 さん

12月のワーキンググループ会議は、近江八幡市の滋賀県立男女共同参画センターG-NET しがでで開催しました。近江八幡市での開催は4年ぶりでしたが、師走の忙しい時期にもかかわらず、遠方からもたくさん参加してくださいました。

話題提供者は近江八幡おやじ連 代表の高橋作榮さん。定年退職前後の男性の居場所づくりを目的として、平成13年から継続しているおやじ連の活動についてお話ししていただきました。お話されている姿からも、元気に楽しく活動されている様子がうかがえました。

近江八幡おやじ連

近江八幡市では、定年退職男性の閉じこもり対策、居場所作り、仲間づくりを目的として、H13年度から「おやしサロン」男の料理教室講座」を毎年開催



*長く続いている秘訣は？

- ・各グループが完全に独立して活動している
- ・各々が自分のペースで無理なく楽しく活動している
- ・毎月各グループの活動予定一覧表が配布され、参加は自由

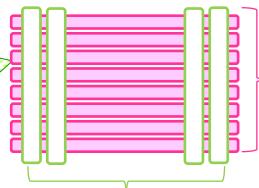
*課題

- ・平均年齢が80歳に近く、解散を検討しているグループもある
- ・存続するために新しいグループを作らなくてはいけないが、人が集まらない
- ・免許返納などで、交通手段がないため参加できないという人が出てきた。今後は地域ごとのコミュニティで活動することも考えないといけないかも…

毎年一つずつ退職男性講座の同期グループ(よこ糸)が結成され、自由参加のボランティア活動(たて糸)も取り組むようになる

(H28年現在) 25団体/350名

おやし連としての活動は、5月のふらふらウォークと11月の作品展のみ。他は、各グループで活動しています！



自由参加のボランティア団体

地引網体験やタケノコ掘り、桜並木のほんぼり飾りなど、子ども達を巻き込んだ活動は人気です♪ 親や祖父母など、幅広い世代が参加してくれます！



【参加者の声】

- ・誰もが役割があるというコンセプトが素晴らしいし、そういう形でここまで大きな組織になったことが、本当にすごいことだと思う。
- ・グループだけグループではなく、複数ある団体がとても良いバランスで成り立っている。フラットな関係で、強制的ではなく、好きなことをやっているのが長続きの秘訣だと思う。
- ・活動を支えるためには社協や行政の支援が必要。
- ・子どもを巻き込んだ活動が魅力的。
- ・人が集まってくるための餌となるものが必要という話があったが、ベジチェックや血管年齢測定などの器具をコミュセンなどに置いてはどうか。
- ・暇な人は集まらないということだが、それをどう解決するか考えることが課題。自分が得意なことや好きなことを活かせるなら集まってくるのでは。
- ・将来に向けて、今から趣味を一つ持っておいたり、良い意味での「つながり」を作っておくことも大切だと思う。
- ・退職したらあんなことがしたいこんなことがしたいと思っていても、なかなか一歩が出ないという人が多い。その時に魅力的な声掛けがあると、動き出す人も多いと感じる。
- ・地域の中で活動していくとなると、移動手段の問題が出てくる。免許返納などもあるが、このあたり、今後どうするか聞きたい。私たちの地域でも同じような問題があり、考えていかないといけないと思っている。



おやし連では、ボランティア活動以外は自分たちでお金を出しており、補助はいただいていない。自分たちで全部やるのが基本で、補助をいただければ活動は続かないと思っている。

また、代表者はいるが協力者も必要で、そこで大切なのは人と人のつながりだけだと思う。

ある本に「したいけどできない人と、できるけどやらない人、人間には二つある」と書いてあった。

存続のためには、できるけどやらない人達に、何とか力になってもらわないとだめなのかなと思う。

どこかで誰かにお世話にならないといけないということがわかっただけでも、成長したなと思っている。



高橋 作榮 さん

【次回ワーキンググループ会議】

○日時：令和6年1月25日(木) 18:30~20:00

○場所：滋賀県庁新館7階大会議室 (Web参加可)

○テーマ：「電動アシスト自転車思考で困りごとを解決」

○話題提供者：TANOMERU 代表 宮元 藤弘 さん



医療福祉の地域創造会議 事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529

e-mail info@chiikisouzoukaigi-s higa.jp

